

# えびあん

立川と語ろう 立川に生きよう

June 2017

Écoutez Bien Vol.35 No.391

6

『立川市民科』でこう変わる



表紙の人／藤の花房（柴崎町）

# 続・砂川深層 ⑥

現在の立川市役所(泉町)

## あれから54年、立川と砂川合併のお話 [2]

案内人：豊泉喜一氏

昭和37年7月リコールによる選挙で立川市には新しい市議会が構成された。立川市、砂川町双方に新市建設特別委員会が設置され、合併に向け合併方法、財政、税制、職員、議会、消防等の取扱いなどにつき協議が進められた。更に砂川町からは、合併後の街づくりに必要な条件として、学校施設の拡充、道路5ヵ年計画、都市計画街路、下水道整備等4つの重点施策が要望された。

しかしこの頃、砂川町の宮崎傳左衛門町長の支持母体でもある〈砂川基地拡張反対同盟〉では、合併反対意見書を新聞折り込みで町内全戸に配布、更に町役場前で反対集会を開き合併絶対反対を表明していた。後にこの辺の事情を、反対運動の中核的指導者・宮岡政雄氏が著書『基地拡張反対の記録』の中で、宮傳町長の心境を「合併賛成と反対の狭間で大変な重圧であったろう」と記述されている。果たして、12月5日に開かれた町議会で立川市との合併問題につき、宮傳町長は「私はこの合併条件は不満であります」と答弁の直後倒れた。合併推進、反対の狭間で苦慮していた町長は、翌日役場内で帰らぬ人となり、8日盛大な町葬が営まれた。

町長死去に伴う町長選挙は翌年の1月27日に行われたが、この間50日余り合併作業は着々と進んだ。町内各自治会長との協議が行われ、住民説明会の開催、「合併賛否住民投票」の実施が決まり、1月12日から14日に町民アンケートを実施した。この結果、賛成61.42%、反対36.35%になり、これを受けて砂川町議会新市特別委員会は1月16日町長不在のまま合併を決議した。1月27日に行われた町長選挙は、合併推進派の砂川三三氏が当選、2月2日砂川町議会は多数決で5月1日合併を決議した。

当時砂川町は、昭和30年に始まった基地拡張反対運動が8年目に入り、予定地の測量は中止になったものの、法廷闘争が延々と続き解決の見通しがなく膠着状態であった。反対同盟は合併にも強く反対していて、この問題も合併交渉の大きな課題になっていた。しかし、都市化が進み新しく大規模団地が次々に建設され、下水道の整備をはじめ学校建設や基盤整備の必要に迫られていたのも事実であった。合併協議の途中、町長の急死というアクシデントがあったにも関わらず、比較的順調に合併交渉が進んだのは、立川市、砂川町にとって「機」が熟していたというべきだと思う。



合併を祝うアーチで飾られた旧立川市役所(錦町)  
「今昔写真集たちかわより」



合併前の砂川町役場  
合併後は砂川支所と改称された  
写真提供：立川市歴史民俗資料館



在りし日の砂川町  
宮崎傳左衛門町長

# 先生は「仏女」

## 室町の世界がおもしろい

### 女性の先生が

### 絵巻物を通して女性を語る

### これも古典籍への入口のひとつのようだ

## 魅惑の『鉄心斎文庫』展示

「歴女」や「刀剣女子」が増え、ひと頃より「仏女」ブームは下火になっていますが、それでも多いですね。お寺を訪ねたり仏像を鑑賞する女性たち。ゲームにビジュアル系歴史人物が登場する一方で、仏像はどちらかというかわい系にシフトしているようです。素朴な円空仏とか。当館でも、来年の秋に「中世の祈りと救い」をテーマにした特別展示を企画しています。仏教というと、どうしても難しいものと敬遠されがちですが、皆さんにもっと親んでもらえるような展示にしたいと考えています。

もう少し近い時期のところだと、いよいよこの秋、特別展示「伊勢物語のかがやき―鉄心斎文庫の世界」を開催します。「鉄心斎文庫」は、三和テッキ株式会社の元社長・故芦澤新二氏が、美佐子夫人とともに40年以上の歳月をかけて収集した、空前の『伊勢物語』コレクションです。ありがたいことに、当館はその寄贈を受け、昨春一部を公開展示しました。今回はまた様子を変えて、『伊勢物語』に関連する80点近くの資料を展示します。『伊勢物語』の写本や注釈書など貴重な古写本はもちろん、絵巻や屏風、かるたや絵入り版本なども陳列し、それらが全て『伊勢物語』という一作品をもとに展開しているというのがよくわかる、とても楽しい展示になります。

なかでも私のイチ押しは「業平涅槃図」です。お釈迦様が入滅される時の様子を描いた涅槃図のパロディで、在原業平が死ぬ場面になっています。東京国立博物館にも「業平涅槃図」はありますが、鉄心斎文庫のものとは絵師が異なります。江戸中期に活躍した山崎龍女という女性が描いたものです。

お釈迦様の場合は、その死を嘆いて人も動物も男女問わず集まっていますが、色好みの貴公子である業平の場合集まっているのは女性ばかり

りです。身分もさまざま、お姫さまも庶民もいます。そして、動物までも牝なのです。涅槃図では動物は対で描かれることが多いのですが一例えば虎と豹の対なら虎は牡、豹は牝と認識されていたのですが―、ここでは豹のみを描き、牝であることを示しています。つがい描かれることの多い鹿や鶴、鴛鴦なども、1羽しか描かれず、明らかに牝を描こうとしているとわかります。背景にある木は、お釈迦様の場合は8本であることが多く、八正道（釈迦の教えを实践するための八つの方法）を示すと言われますが、業平は6本で六歌仙を意味したものかと思われま。こうして1枚の図からもいろいろな読み取りができるわけです。鉄心斎文庫にはこんな楽しい品もあるんです。展示開催の折には、ぜひ実物を間近でご覧ください。

## 室町の面白さ

私の専門は中世文学で、室町時代から江戸初期の動きに関心があります。文学作品そのものはもちろんですが、作品をとりまく当時の文学環境に特に関心があります。これは寺院資料を調査することで知ることができます。お寺に伝わる文献や絵画資料などを見ていると、お坊さんが難解な経典や経説を人々にわかりやすく説くために、物語とか絵をいかにうまく利用していたのかがわかります。様々な文化が花開き、現代にまで受け継がれている点で、近世文学も面白いとは感じるのですが、でもその始まりは室町時代にあると思うのです。多種多様な物語が紡ぎ出され、庶民にまで広がる動きは室町くらいから見えてきます。応仁の乱など、ずっと戦が続いていて、ふつうに考えると、文学とか文化に関心を持てるような時代じゃないと思われますよね。ですが実際には、能や狂言などの芸能が生まれてきている。物語に節をつけて語り聞かせる浄瑠璃も、起こりは室町です。江戸文化が花開こうとする少し前、時代の転換期、

というところが面白い。パワーを感じるというか。室町以前には公家、武家、お坊さんの世界のなかに閉ざされていたものが、庶民にまでどんどん広がり、それぞれが影響を与え合うようになるんです。

かつては国に護られていたお寺も、戦乱の世で後ろ盾を失ってしまい、生き残るためにはより多くの層に受け入れてもらうことが必要でした。そこで物語や絵を利用したのです。難しい仏教のお話を、どうアレンジしたら人々の心をつかむことができるのか。こうした発想、現代とすぐリンクしていませんか？

一方で、かつては文化の中心に位置した公家や勢力を増す武家なども、盛んに寺社の縁起絵巻や仏の教えを説く物語を制作したりしています。そうして、それぞれがお互いに多様な影響を与え合いながら、物語は幅広い層に受け入れられていきます。物語の端々に、戦乱の世をたくましく生き抜く人々の様子がうかがえ、私はそこにこそ室町の面白さがあると感じています。

## 物語絵にみる男と女

現在、当館の事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に携わっています。その成果のひとつとして、この3月にハーバード大学でワークショップ「中世美術と絵巻の宗教空間」をおこない、日米を中心に仏教学や美術史、そして日本文学を専門とする研究者が集まりました。私は、以前に詳しく調べたことのある、ニューヨーク公共図書館のスパンサーコレクション所蔵『因果業鏡図』という絵巻について報告しました。この絵巻、もともと全3巻あったはずが、残念なことに上巻は失われてしまい、現在のところ、中巻がスパンサーに、下巻がハーバード大学美術館に所蔵されています。「業鏡」とは現世の罪を映しだす鏡を意味します。現世がいかに穢れていて罪深く生きにくいものかを説いたうえで、極楽



室田知子氏

東京都出身。国文学研究資料館助教。専門は日本中世文学。2009年日本古典文学学術賞、2013年人間文化研究奨励賞受賞。おじいちゃん子で幼いころからお寺に連れて行ってもらった。そのせいか、今どきの「仏女ブーム」到来前からの仏像好き。お酒と温泉も好きで各地を巡っているが、飛行機が怖いので本州専門。しかし、国文学研究資料館に着任してからは、国内どころか海外出張も多いため、頑張って嫌いな飛行機にも乗り、最近は苦手な英語にも挑戦しはじめたそうだ。

坊さんにとって女性がどれほど悩ましい存在であったか、その煩悶とするさまがおかしくも可愛くも思えます。そして当時の寺院が物語を生み出し、語り伝える場として重要な役割を担っていたことを、うかがい知ることが出来ます。

ちなみに、当館のブックレットシリーズ〈書物をひらく〉の一冊として『異界へいざなう女』を先頃刊行しました。絵巻や奈良絵本について書いたものですが、一貫しているのは室町初期から江戸前期の物語絵と女性の関係性です。物語に描かれた女性像から、物語の受け手・語り手の女性、物語制作の発注者である女性も含めて、広く見渡しました。これも海外でワークショップをした時にお話したネタです。例えばシンデレラでも魔法使いはお婆さんと設定されますが、洋の東西を問わず老女が主人公を救う話は割と多く見受けられるのです。それをどう考えるかということですね。『酒吞童子』の大江山の鬼退治に登場する、洗濯する女。鬼の住処と人々が住む世界の境界にたたずむ女性です。古い絵巻では200歳のお婆さんという設定になっています。彼女は三途の川で亡者の衣を剥ぎ取る奪衣婆とイメージが重なり、鬼の世界を象徴する人物でもありました。ここで登場するのは若い女性ではダメで、老女でなければならなかった。やっぱり一般の成人男性を中心とする社会では、老人や子ども、さらに女性という存在は異界側という認識なんですね。自分たちの境界の向こうにある存在。二つの世界を往き来する媒介者でもありました。

## 研究の成果を社会へ、世界へ

江戸時代になると、物語は出版されて内容が固定化されていきますが、それ以前の物語

は成長し、展開し続けていました。それも室町の面白ところかなと思っています。伝える手段が語りや書写だったことから、多くの異本が生まれました。前述の『道成寺縁起』は、僧が鐘に隠れていたところを蛇になった女性に焼き殺され、後に法華経の御利益で救済される話ですが、『日高川の草紙』になると、蛇になった女性がお坊さんを捕えて、一緒に川へ沈んでいく話に変わっています。仏教のありがたみを説く話から、報われない女性の恋の話へと重点がシフトしているのです。より大衆受けする形に変えられたといえるでしょう。大学の授業で取り上げても、仏教で救われる話より川に沈む女の話に女子学生は肩入れするようですね。そんなところをきっかけに、室町の物語世界に関心を持ってもらえたらと思っています。

国際研究に携わっていますが、実は英語も飛行機も苦手なんです。これまで避けてきたのですが、もうやるしかない。とはいえ、英語での口頭発表や論文執筆はやはり難しいです。例えば「室町期の写本」とした場合、英語では、それは室町に成立したもののなのか、それともその時に書写されたもののなのか、単語を選ぶ段階で明確にしていなければならない。「original」か「copy」か。当たり前のことですが、今までいかに日本語のあいまいな表現に頼ってきたか実感しましたね。

これも海外での話ですが、先日、ホノルル美術館でハワイ大学の院生向けに、当館の教員たちが古典籍のワークショップをおこないました。私はくずし字をテーマに担当したのですが、関心が高いようでした。日本の看板などに見られる身近なくずし字も紹介しました。「生そば」とか「お手もと」とか。形としてオシャレで、日本の文化として息づいているんです。ホノルル美術館でも貴重な古典籍を沢山お持ちなので、是非読みこなして研究してほしいとお話ししてきました。くずし字を読むためのスマートフォンのアプリが開発され、古文書一般の方々で共同翻刻するサイトが登場するなど、なにかと話題のくずし字ですが、日本文化の裾野を広げるために大変有効だと思います。

連続講座「初めてのくずし字で読む『百人一首』」も担当しています。なんでもやる？はい、たまのお休みに巡る温泉とお酒を楽しみに!

# 知る・関わる・貢献する

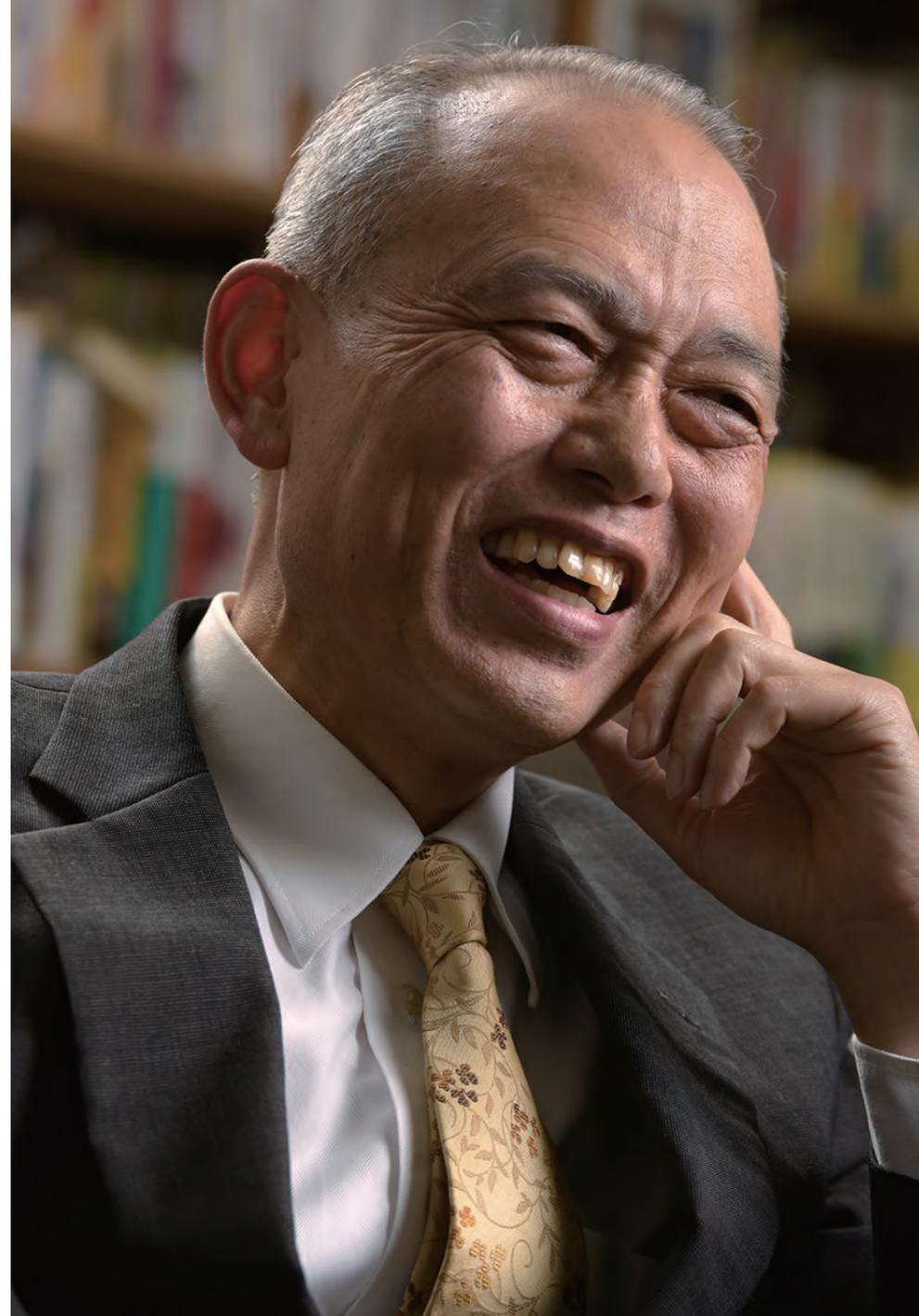
## 『立川市民科』で立川市民力を培う

3年目を迎えた『立川市民科』  
教育長に成果とこれからの聞いた

——食中毒の一件は大変でした。  
**小町** 本当に申し訳ありませんでした。命につながることで、常に緊張感を持って取り組んできましたが、チェック体制に弱い部分があったと反省しています。対策を立てて再発防止に向け、しっかり取り組んでいきます。今回、共同調理場は日本で有数の衛生管理と保健所のお墨付きをいただいていますから、食材のチェック体制を強化するという事です。  
——原因がわかりにくくて、最後はDNA鑑定だったそうですね。  
**小町** はい。学年末で卒業式を控えていました。心情的にどうしても6年生をお弁当で終わらせたくなかった。最後の2日間だけでも「給食食べられたよ!」としたかった。1年間の人気上位メニューの1位、2位をリクエストするお楽しみ給食ですからね。保健所などに頑張っていたら、ギリギリ間に合いました。  
——頭を下げられる姿はすっかり全国区でした。  
**小町** 本当に申し訳なかった。お子さんたちの苦しい状況や保護者の皆さんのご心配を思うと、自然と頭が下がりました。  
——新年度になりました。小町さんが教育長になられて5年目。いろいろおありでしょうが、本日は『立川市民科』についてお話を聞かせてください。  
**小町** はい。なにゆえに『立川市民科』か、というあたりですね。私が教育長になった当初、立川は多摩地域の他市に比べて学力が低かった。授業を見に行ってみると、教室の中で手が止まっている子どもたちがいた。それがどのクラスにもいる。それを見て、あの子たちの心になり代わったら、とてもつらかった。わからない授業があると心が

萎えちゃいますよね。果ては不登校にもなりかねない。義務教育の段階で子どもたちに諦めさせたくなかった。補習をと言っても、先生たちは忙し過ぎる。そこで土曜日や放課後、夏休みなどに補習授業をすることにしました。市長にお願いして予算をつけてもらって実施したところ、途端に補習に参加している子どもたちの学力が上がってきたわけです。そこで東京都の学力ステップアップ事業の地域指定を受けて、平成27、28、29年度の3年間ということで、教員のOBや大学院生による補習をやっていますが、目に見えて変わってきています。子どもの感想は「できた、わかった、嬉しい」なんですよね。保護者からもぜひ続けてほしいと好評で、これで基礎的な学力の見直しはついてきたわけです。  
——それはすばらしい。教育や学力というと国分寺、国立の次は日野に飛んでしまっていましたからね。  
**小町** そう。ですから立川はこれをずっとやり続けなければならないのですが、一方で「街づくり」を見てきた者としては思うところがあつたわけです。  
——小町さんは行政の中で長く「街づくり」に携わって来られた方ですものね。  
**小町** 自治会の加入率は下がる、孤独死はある、オレオレ詐欺もある。「地域力」の低下が心配です。肝心の足下のコミュニティが崩れては「賑わい」も続かないわけです。現に、立川の文化や歴史を継承してきた方々が徐々に少なくなっている。その方たちが自身が「このままじゃ、立川の文化は途切れる」とおっしゃる。地域行事とか祭りとか、コミュニティの中で引き継がれてきたものが将来継承されない心配もある。  
——確かに地域行事はどの地域もいつも同

じ顔触れ、ご年配の方が多くですね。若い市民は参加しない傾向です。  
**小町** それならば、教育の分野で子どもから変えていこうと思いました。子どもが変われば大人も変わるという確信がありましたから。「まちづくりは人づくり、人づくりは未来づくり、未来づくりは学校から」です。  
——言うは易しですが、どうやって？  
**小町** 地域を「知って、関わり、貢献する」という取組み、それが『立川市民科』です。発達段階に応じてプログラムを組む。立川市域は狭くても地域特性が違いますから、地域ごとに中学校区でまとめて小学校をその下に入れて、『立川市民科』という9年間のカリキュラムの中で、「地域を知り、関わり、貢献する」。全校区で一斉に始めてもう2年経ちました。  
——それだけでなく忙しい学校側の反応はいかがだったのでしょうか？  
**小町** 新たに何かというより、今までやってきている郷土学習の延長上でいい、それをつないでいこうと話しました。校区によって取組み内容の差はもちろんあります。ありますが、歩み始めることが大切です。  
——2年経って、いかがですか。  
**小町** ここでちょっとテコ入れしたいなと考えています。地域特性はいいのですが、全員立川市民じゃないですか。立川市民としての共通項を何か入れたいなと考えました。そのひとつは小学6年生と中学2年生全員が救命講習を受けることです。修了すると受講証や技能認定証がもらえるんですよ。達成感がありますでしょ？ 東日本大震災でも、中学生は大変活躍したそうです。技術だけ学ぶ、教材で知識だけ得るということではそれまでもやってきました。が、『立川市民科』で立川を継続的、体験的に学ぶこ



小町邦彦氏  
立川市教育委員会 教育長

とで、自分の生まれ育った地域、家族も含めて自分の好きな地域の人、それを守りたいという思いが子どもたちの心に育ってきています。それを背景に救命講習をやると、技術に心が伴い忘れない体験になっていくのではないのでしょうか。実際に防災訓練などで披露していけば、大人からも評価され、いろいろなモチベーションにスイッチが入るのではないかなと期待するわけです。  
——誰かの役にたつ、必要とされるって、自分の存在をしっかりと肯定できることですね。  
**小町** そしてもうひとつは、こうした子どもたちの頑張りから、防災訓練に来たことなような大人が何か気付いてくれるようにな

るのではないかと考えています。姉妹都市の大町市との交流も、まずは子どもが交流し、やがて大人も行ってみようかという展開になれば、人の交流が広がりいろいろな波及効果で盛り上がってきて双方の街が活性化し、いざ災害の時には助け合う。姉妹都市としては理想の姿ではないでしょうか。  
——そんなにうまく行きますかね？  
**小町** 今の子どもたちってすごいですよ！いや、すばらしいパフォーマンスをしてくれるんです。もう感激しちゃって。立川市の中学生が大町市の中学生との交流をした時、「平成27年度立川市・大町市姉妹都市中学生サミット共同宣言」を作ったんです。これを作る現場に私は立ち会っていました。

グループに分かれて話し合っ、いろいろな提言のアイデアを出して、それを全体に持ち寄って、いいところを組み合わせてという一連の流れをライブでずっと見ていたら、圧倒されましたね。今の子どもってすごい力を持っていると思いました。司会する子はどんどん進めて、平行してパワーポイントでどんどん打っていくし、ちゃんと意見は言い合うし、この共同宣言は純粋に子どもの手作りなんです。改めて、子どもから「姉妹都市交流をしっかりとやらなきゃいけない」って教えられましたね。  
——地域を知って大切なことなんですね。グローバルと言われる時代だからこそ。  
**小町** そうです。世界で活躍していく人は、自分のルーツ、自分の育った地域の文化や歴史をしっかりと身に付けていないと信用されないと言われてます。自分の地域を大事にする、人を大事にする、文化を大事にするということ。はどんなビジネスにも活動にも通じることなんです。その基本姿勢は国際人として共通基盤なわけです。『立川市民科』でまず立川にこだわって、足元をしっかりと知って関わって貢献する。その基本姿勢はどこへ行っても使えます。自分の文化を尊重する人は相手の文化も尊重できます。それこそが国際人として必要なことだと思います。心を持って地域を体験的に学ぶ、それが『立川市民科』の授業です。  
——でもこれだけのことを要求される学校の先生って、大変そう。  
**小町** いやいや、先生はやっぱり先生です。プロ！すばらしい取組みによって、序々に成果は出てきています。

えくてびあんはリストのお店にあります。  
 今月は 緑町・泉町・西砂町・上砂町・砂川町  
 柏町・幸町・若葉町・栄町 のお店です。

- 緑町**
  - 南極・北極科学館.....512-0910
  - 国文学研究資料館.....050-5533-2900
  - 花みどり文化センター.....528-1751
  - 昭和天皇記念館.....540-0429
- 泉町**
  - インヴォラーレ・ルーデンス
  - 立川ルーデンステニスクラブ 525-9677
  - blooming bloom 55ぼーと立川立飛店 548-1215
  - 東京消防庁 立川消防署.....526-0119
  - Café はあもにい.....512-7810
- 西砂町**
  - パティスリー プルミエール 531-4835
  - 砂川庵 甚五郎.....531-6788
  - 西砂歯科医院.....531-4129
- 上砂町**
  - B3+ギャラリーウェルメイド 538-7250
  - fresh shop スーパーはしもと 536-2331
- 砂川町**
  - みの一れ立川.....538-7227
  - JA 経済センター 立川店.....536-1824
  - JA 東京みどり 立川支店.....536-1821
  - 陶工房 己流庵.....537-6102
  - たましん 砂川支店.....535-4411
  - 珈琲豆焙煎工房 まめ吉.....535-1070
  - BREAD & Sweets マニエール 537-2202
- 柏町**
  - café de La Boum.....534-6541
  - 山梨中央銀行 立川支店.....536-0871
  - 株式会社 セレモア.....534-1111
  - 超こってりらーめん パワー軒 535-1665
  - H.works.....537-7763
  - ペーカリー リオンドール.....535-4882
  - (有) まつい測量.....534-4411
  - ピーコック 玉川上水店.....538-3861
  - 菅家医院.....536-4602
- 幸町**
  - 立川農産物直売所.....536-2439
  - いなげや 立川幸町.....537-1820
  - たましん 幸町支店.....535-5311
  - 中国料理 SANFUJI.....536-3813
  - 西武信用金庫 幸町支店.....537-3101
  - お米屋さん 大黒屋.....536-0851
  - (株) 松浦商事.....536-6001
  - 江戸前・富山の魚と酒 緑寿司 536-4800
  - 至誠キートンホーム.....538-2323
  - とんかつ・割烹 かつ亭.....535-4611
  - ドイツ製法・ソーセージ・ホフ工房 535-5009
  - 和洋菓子 たはばな.....537-0347
  - BS タイヤショップ 佐藤商会 537-0912
  - 在宅療養支援診療所 立川在宅ケアクリニック 534-6964
  - 古楽の小屋 ロバハウス.....536-7266
- 若葉町**
  - レストラン サラ.....534-0602
  - 浅見内科医院.....537-0918
  - スーパー ヤオコー.....538-1711
  - ひとひとつ.....507-7352
  - ありた整骨院.....534-1622
  - カフェ タイニーガーデン.....507-1346
  - カフェ レストラン てくたく.....536-5788
- 栄町**
  - たましん 栄町支店.....536-9711
  - いなげや 立川栄町店.....523-7201
  - ニュースサービス日経 立川中央 522-4507
  - チーズ王国 本社.....513-4101
  - 高橋酒店.....522-4479
  - 彩食中華 須崎.....507-0981
  - 寝具の石川.....524-1333

# jorakugajo

真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー! : 529ch

スカパー!で放送の常楽我浄は  
 スマートフォンアプリ「ivy」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩 : 111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

## 街の話題

### 第7回立川文学賞授賞式

4月8日(土)立川グランドホテルにおいて、第7回立川文学賞授賞式が行われました。今年は33都道府県から160編の作品が応募されました。複数応募もありますので、160人の応募ではなく、160作品。その中から大賞に蓮見仁さんの『東京優駿』が選ばれました。佳作には、ふじたごうらこさんの『茶粥地蔵』、紅露冴さんの『トワイライトダイヤル24時』、石川祐介さんの『忍び絵師』、枝橋勝さんの『オオルリが啼いた』。紅露冴さんの『トワイライトダイヤル24時』は、市長特別賞も同時受賞です。清水市長のお祝いの言葉の中に、「題名を見て大都会の真夜中の喧騒のような話かと思ったら、自殺防止センターで24時間ボランティアをされている方の話で、身につまされた」とありました。紅露さんのご主人は、昨年の大賞受賞者です。



立川文学賞実行委員会事務局長の鈴木茂さんの選考経過報告によれば、160編の作品は第一次審査で26編に、第二次審査で16編になるそうです。そこから5作品が受賞。大賞を受けると以後の応募はできません。昨年同様それ以前にも応募して授賞式の常連だった蓮見さんは、今年「卒業」ということになります。でも佳作を受賞された方はまた応募することができ、今年も過去の受賞者からの応募が多かったそうです。ということは、とてもレベルが高くなってきているということです。



左から 石川祐介さん、ふじたごうらこさん、紅露冴さん、八木敏郎さましん理事長、志茂田景樹審査委員長、中野隆右実行委員長、蓮見仁さん、枝橋勝さん

大賞の『東京優駿』は競馬の裏側のお話。蓮見さん、今年も4作品を応募、3作品が第二次審査に残り、そのひとつが大賞となりました。『茶粥地蔵』は途中失聴の方のお話をユーモラスに、ふじたごうらこさんご自身もその体験があり、人にはいつ何時どんなことが起こるか分からないという言葉には説得力がありました。『忍び絵師』は忍者の話。作者の石川祐介さんは、双子の息子さんの件で立川の児童相談所にイラッとするのがあり、見返してやる!とこの作品を書き始めたそうです。イラッとしたのが応募のきっかけでありエネルギーでしたが、今は感謝しかないと。文章を書くってすごいことですね。『オオルリが啼いた』について審査委員長の志茂田景樹先生は主人公が真摯に生きている姿を評価されていました。



選考経過報告(鈴木茂氏)

これらの受賞作品は6月にけやき出版から単行本として発刊され、また中央図書館のご協力で音読本にもなります。えくてびあんの質問に答えて、志茂田先生は次のお話くださいました。「立川から発信している文学賞だが、世界の裏側から応募してもらいたい。各地に文学賞があるが、立川は現代都市としての変化が大きい街。立川から発信する意味を念頭に置いた方がいいかなと思っている。第7回を迎えて、立川文学賞は徐々にポディブローのように効果が出始めているところで、第10回あたりまでの間には大きな稔りがあるのではないかな。発信し続けることでどんな変化を社会にもたらしていくかわからない。それが立川という所の面白さ」だと。言われてみれば、なるほど!ですね。



えくてびあんの質問に答えてくださる志茂田先生

### 海はないけど、白砂のタチヒビーチ

タチヒではありません。タチヒ=立飛です。タチヒビーチは砂浜のイメージで、白砂が敷き詰められたリゾート地。GWにプレオープンしました。それに先立つ4月22日(土)と23日(日)に、ビーチで使うウッドデッキやテーブル&ソファなどを、DIYが趣味の方が公募で50人ずつ集まって、ワイワイ言いながら作りました。指導はアウトドアの専門家、タレントの清水国明さんです。作り上げたテーブル&ソファには、それぞれのサインがしてあります。えくてびあんは23日、快晴の日に参加。作ったテーブルには「えくてびあん」と記してきました。大工仕事のあとは、自分たちが作ったテーブルでBBQ。ららぽーとのブルーミングブルーミーからスペシャルな差し入れがあったりして、楽しい1日となりました。GW中、清水国明さんはずっとタチヒビーチにいらしたそうですよ。



## おじゃまして〜す! [55]

### 中国菜館 多味軒

立川駅から徒歩5分、錦町でお店を始めて8年が経ちました。その間、ほとんどお休みなし。ご用で中国へ帰省する以外は、毎日毎日、おいしいお料理を皆さんに。おかげで多味軒ファンが増えました。常連さんがいつもの味を



焼き餃子五個 四百五十円

求めています。しゃいませ。季節の移ろうこの時期に、何をご紹介しますでしょうかと問えば、「大人気の冷やし担々麺と餃子」と。暑くなってくる

とやっぱりさっぱりした味が恋しくなりますよね。冷やし中華もありますが、中国でも大人気の冷やし担々麺は、立川でもやっぱり人気。毎年、夏にはよく注文が入るそうです。ピリッと辛い黒ゴマのタレがしっかり麺にからまって、大根やキュウリ、水菜といったさっぱり系野菜がたっぷり載っています。食べる前に野菜にドレッシングをかけて味をさらに調えます。ボリュームのある野菜サラダという感覚です。一方餃子はといえば、裏切らないおいしさ!定番のビールと餃子で、今日も皆さん、お疲れさまでした〜!



〒190-0022  
 立川市錦町1-5-24-1F  
 TEL 042-526-5925  
 営業時間  
 11:30~15:00 17:00~23:00  
 定休日はなし  
 (お休みの際は事前告知します)



冷やし担々麺 780円

## 表紙の人

柴崎体育館の藤棚

5月の立川は、萌える緑と鮮やかな花の色に包まれる。チューリップやハナミズキが4月から咲きそろう、バラやクレマチス、シャクヤク、ユリ、サツキ、シャクナゲ、ポピーなどが追隨する。タイサンボクも大きな白い花を静かに開く。立川の公園には藤棚が多いが、藤にも種類があって花房の大きさや色が異なることに気が付いた。淡い紫もあれば濃いものもあり、中には白い花房も。柴崎体育館の藤棚に、色も形も見事な藤の花が咲いていたのでお願いして撮影させて頂いた。先ごろ整備が整った立川公園のすぐ南。立川公園はかつて「がにがら」と呼ばれていた場所。立川の豊かな自然をコンパクトに詰め込んだような公園で、今号がお手もとに届くころには、また別の植物が花を咲かせているだろう。

## かたこと

◆立川青年会議所(以下JC)が9月17日(日)に開催する「キッズドリームチャレンジ」。「キッズドリームチャレンジ」は、子どもたちが職業体験を通して自己肯定感を培うという企画です。ジャーナリストという職業でえくてびあんもご協力させていただいていますが、今年は立川にある研究機関にもご協力いただくこと、立川JCの岡部理事長らと国文研、極地研、統数研を訪問しました。統数研で樋口知之所長とお話しさせていただくと、なんと、職業体験の10業種の中に10年後にはおそらく無い職種が2つも含まれているそうです。職業体験の意味がない?情報の時代という言葉は聞きなれていても、その本当の意味がわからないと時代を見誤るかな?◆そういう意味でも子どもたちの教育は大事です。従来の学習方法が本当に役立つかどうか。人口知能が進化することで、もっと人でなければできない部分を手厚くできるようにするのがのかもしれない。教育長のお話の中にも「ハート」という言葉が何度も登場しました。小町教育長は落語がお得意ですが、落語は日本の伝統芸能、話芸です。話芸もやっぱり「ハート」ですよ◆5月14日、立川駅北口たましん本店北側の広場に、『立川小唄』の記念碑が建立されました。えくてびあんでは『立川小唄特集号』を4月25日に発刊し街なかに配布しましたが、皆さまのお手もとはごさいますでしょうか?立川の空に民間飛行機が飛んでいた昭和初期の様子を一冊にまとめてあります。今まで公開されていない新情報も掲載しました。よろしかったらご覧ください◆また今号もえくてびあん、がんばります! えくてびあんスタッフ一同

## えくてびあん

6月号 第35巻 通巻391号

平成29年6月1日発行  
 発行 有限会社えくてびあん  
 〒190-0023  
 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F  
 TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
 E-mail message@tamatebakonet.jp  
 URL http://www.tamatebakonet.jp  
 発行人 黒須環  
 企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ  
 デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
 印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。



手前が「叩き豆腐」。「卵なます」の右にあるのが「煎酒」。

## 作ってみました『江戸ご飯』——⑤

# 卵なますと叩き豆腐

国文学研究資料館所蔵の江戸時代の料理本に書かれてあるレシピを『江戸料理レシピデータセット』として公開、それが現代語になってレシピサイト（クックパッド（江戸ご飯））に掲載されています。そこから今月は「卵なます」と「叩き豆腐」をご紹介します。

『万宝料理秘密箱 玉子百珍』からは、別名「江戸の卵サラダ」と言われる「卵なます」。お酢の代わりに「煎酒」を使います。「煎酒」の作り方は、清酒三〇〇ミリリットルに梅干を四個と鰹出汁を入れて煮詰めるだけ。あら、不思議！すばらしい調味料のできあがり。ゆで卵の黄身を「煎酒」で溶いて薄焼き卵と混ぜるのですが、マヨネーズより美味しい。油を使わないのでスッキリしたお味ですが、大根おろしと一緒に混ぜるともっとさっぱりできあがります。ゆで卵の白身を刻んで混ぜると、色も食感も楽しめます。ゆで卵さえ作ってしまえば、あとは和えるだけ。ササッとできて便利です。

「叩き豆腐」は見た目からおわかりでしょう。「豆腐ナゲット」です。焼き豆腐の水を切つてすりつぶし、味噌を加えて少量の小麦粉をつなぎにします。ナゲットの形にまとめたら小麦粉をまぶして油で揚げます。ナゲットは古今東西、老若男女、みんな大好きな食べ物です。焼き豆腐二丁で充分四大家族分はできますし、冷めてもおいしい。熱々に野菜餡をかければボリューム満点。ここでは味噌を入れるのですが、チキンコンソメで味付けすれば、チキンナゲットの味になるのかな？いろいろ工夫でアレンジが広がるレシピですね。豆腐レシピの出典は『豆腐百珍』です。